



今すぐできる地震への備え！

地震に対する10の備え

黄色は防災ブックに載っているページだよ。見てね！

身の安全の備え

家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておこう

- けがの防止や避難に支障のないように家具を配置しておく。
- 家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒・落下・移動防止措置をしておく。



けがの防止対策をしておこう

- 食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておく。
- 停電に備えて懐中電灯をすぐ使える場所に置いておく。
- 散乱物でケガをしないようにスリッパやスニーカーなどを身近に準備しておく。



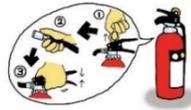
家屋や塀の強度を確認しておこう

- 家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておく。
- ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないように補強しておく。



消火の備えをしておこう

火災の発生に備えて消火器の準備や風呂の水のくみ置き（溺れ防止のため子どもだけで浴室に入れないようにする）をしておく。



火災発生の早期発見と防止対策をしておこう

- 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を設置しておく。
- 普段使用しない電気器具は、差込みプラグをコンセントから抜いておく。
- 電気やガスに起因する火災発生防止のため感震ブレーカー、感震コンセントなどの防災機器を設置しておく。



非常用品を備えておこう

- 非常用品は、置く場所を決めて準備しておく。
- 車載ジャッキやカーラジオなど、身の周りにあるものの活用を考えておく。



家族で話し合っておこう

- 地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておく。
- 外出中に家族が帰宅困難になったり、離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めておく。
- 家族で避難場所や避難経路を確認しておく。
- 普段のつき合いを大切にするなど、隣近所との協力体制を話し合っておく。



地域の危険性を把握しておこう

- 自治体の防災マップ等で、自分の住む地域の地域危険度を確認しておく。
- 自宅や学校、職場周辺を実際に歩き、災害時の危険箇所や役立つ施設を把握し、自分用の防災マップを作っておく。



防災知識を身につけておこう

- 新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから、防災に関する情報を収集し、知識を身につけておく。
- 消防署などが実施する講演会や座談会に参加し、過去の地震の教訓を学んでおく。



防災行動力を高めておこう

日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難要領などを身に付けておく。



ココが大事！

まずは家の中を安全に！



- P. 94～（室内の備え）
- P. 96～（対策のポイント）
- P. 98～（器具の種類）
- P. 100～（チェックリスト）

P. 106～（耐震化）

- P. 109、110（住宅用消火器、住警器など）
- P. 111（防火チェックシート）

- P. 84～（備蓄の重要性）
- P. 86～（備蓄品リスト）
- P. 90～（非常持ち出し袋）
- P. 137（防災資器材の準備）

ココが大事！

家族だからこそ話し合っておきましょう



- P. 114～（居住地を把握）
- P. 118～（地域の危険度）
- P. 122～（家族会議）

- P. 192～（災害時の知恵や工夫）
- P. 238～（災害知識）
- 地震、津波、台風・大雨

ココが大事！

防火防災訓練で行動の備えを！



- P. 130～（防災訓練の種類）
- P. 176～（救命法、応急手当）
- P. 188～（初期消火資器材取扱）
- 消火器、屋内消火栓、スタンドパイプ、可搬式消防ポンプ

初動対応の備え

確かな行動の備え